

平成20年度 盛岡大学附属高校 学校自己評価及び学校関係者評価書

学校経営方針	キリスト教主義に基づいて教育を行い、愛と奉仕の精神を体した人格を形成する。
本年度学校重点目標	1)安定した進路実績を実曳する 2)規律ある学校生活を実現する 3)家庭や地域に信頼され開かれた学校づくりに取り組む
本年度の具体的取り組み	1)校内研修を充実し教職員の資質・能力の向上を図る。 2)教育系大学進学コースを始め各コースからの盛岡大学及び同短期大学への進学者増を図る。 3)高校創立50周年記念事業を実施する。 4)転・退学者数の減少に努める。 5)学校自己評価を実施する。

自己評価結果に対する学校関係者評価

評価項目	重点目標	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校経営	学校体制の確立	学校自己評価を実施する。	A	保護者の回収率を高めたい。	B	B
学校関係者評価者による意見		達成状況の良いものだけを評価するのではなく、悪い点をどう改善するかが大切。全部を評価するのではなく、実のある改善策を重点的に行うことが良い。保護者アンケートは記名だと書きにくい。4段階評価を平均するのではなく、実数で集計したほうが良い。				
総務・渉外	学習活動の安全確保及び学習活動に適切な環境の向上を図る。	防犯対策マニュアルに基づき年1回訓練を行う。	A	防犯具を使った訓練を実施したい。	A	A
学校関係者評価者による意見		実際にマニュアルに基づいた訓練をしており、評価は妥当である。				
学習指導	授業公開週間を設定し、授業力の向上に努める。	各教科1名が指導案を作成した授業を実施した。特に、今年度研究授業該当教科である英語・理科について授業実施後、授業研究会を持つ。	B	大学の先生や、地域の方々にも参加を働き掛けたい。	B	B
	生徒授業アンケートを年2回実施し、実施後の効果的活用に努める。	全ての教科・科目でシラバスを作成し、生徒に提示する。授業アンケートを年2回実施する。理解の浅い生徒には英語・数学の考査前補習を実施する。	B	授業アンケートをさらに効果的に活用したい。	B	B
学校関係者評価者による意見		評価が違ったり、意味の取り違いが起こらないように質問の取り方を工夫してほしい。1期と3期の比較をしたら、よりよい評価になる。				
生徒指導	遅刻の前年度比半減を目指す。	生徒指導課による毎日の校門指導を実施する、月1回の遅刻集計と保護者の協力を得て、指導を強化する。	A	遅刻が増加する10月以降の遅刻対策を考えたい。	A	B
	県高総体・新人大会で上位入賞、全国大会を目指す。	挨拶・服装等の基本的な生活習慣指導の徹底と技術力・精神力の向上に努める。	B	技術面だけでなく、生活面の向上を図りたい。	A	B
学校関係者評価者による意見		10月以降の遅刻が増えた理由は何か？また、それを改善しないと意味がない。クラブの評価は難しい。一人でも力のある生徒がいれば、評価が上がるので、小・中学校では評価はやめる方向にある。				

教育相談	生徒が持つ内的問題について、その実態と背景を観察把握し、内面的理解に努め、自立の援助をする。	欠席、保健室利用、相談室利用の多い生徒について、月1回クラスごとにピックアップし、対応を検討する。特に支援が必要な生徒については担任を交えて具体的に対応する。	B	更に生徒への支援について考えたい。	A	B
学校関係者評価者による意見		自己評価アンケートの9について生徒の評価と教員の評価の違いが大きいのは問題である。				
進路指導	教育系大学進学コースをはじめ各コースから盛岡大学・短大へ合計50名進学させる。	教育系大学進学コースの進路を7割以上盛岡大学・短期大学部にするとともに、盛大説明会・盛大講座などを通し適切な進路指導を行う。	B	さらに基礎学力の底上げを図りたい。	A	B
	国公立大学希望者の半数以上の合格を目指す。	土曜課外、7校時授業の実施と個別指導の徹底また大手予備校講師による夏季・冬季課外を実施する。	B	国公立大学合格者の増加を図りたい。	B	A
学校関係者評価者による意見		盛大・短大への進学者49名、国公立大学合格者7名を明記すべきである。				
保健	規則正しい基本的な生活習慣を確立し、自ら健康維持・増進に努めるようにする。	保健室利用者の生徒に対し、生活チェックをおこない、具体的な指導を行う。	B	生徒全体の実態を把握したい。	B	B
学校関係者評価者による意見		保健室の具体的な指導、連絡体制等は「A」評価で良いと考える。				
家庭・地域との連携	行事やボランティア活動に積極的に生徒を参加させ、地域との交流を図る。	学年通信を3回以上発行する。保育ボランティアや養護学校・老人福祉施設などのボランティア活動を実施する。	A	広報活動を活発にし、活動を公表していきたい。	A	B
学校関係者評価者による意見		学年通信の発行回数やボランティア参加者の延べ人数を記入した方が良い。				
学校独自の活動	生徒・保護者・地域から信頼され、選ばれる学校を実現するとともに、50周年行事を実施する。	生徒・同窓会・保護者・教育後援会の協力を得て、高校創立50周年記念事業を実施する。	A	同窓会組織を強化したい。	A	A
学校関係者評価者による意見		実際に50周年事業を実施し、成功したので「A」にするべきである。				

※達成状況は教職員による学校評価アンケートや保護者・生徒のアンケート、1年間の業務遂行状況を勘案し校長がA～Dの評価をしたものである。(A 適切である B おおむね適切である C あまり適切ではない D 全く適切ではない)

※学校関係者評価は自己評価の適切さと改善策の適切さについてAからDの評価をしたものである。(A 目標を十分達成している B 目標を達成しているが改善の余地がある C 目標を達成するには幾つかの課題がある D 課題が多く改善が必要)

学校関係者評価委員

盛岡大学附属高等学校PTA会長、同副会長
 盛岡大学附属高校同窓会長
 盛岡大学附属高等学校教育後援会会長
 盛岡大学教授1名
 盛岡大学短期大学部教授1名

計 6名